ティーチング・ポートフォリオ

大学名　人間総合科学大学

所　属　人間科学部

名　前　井上紗奈

作成日　2023 年 9 月 25 日

１．責務（何を行っているか、何を果たしているか）

授業担当として、次の通り担っている。学部（ヒューマン一環境・社会といのちのつながり、人間の発達とこころ、こころの科学と実験-個人、こころの科学と実験-集団、ヒト・人間の発達、学習のしくみ、人間総合科学の理解Ⅰ・Ⅱ、人間総合科学の探究Ⅰ・Ⅱ、ヒューマンⅢ、発達心理学と環境、人間発達学)、大学院（心身健康科学特論Ⅱ・Ⅲ、心身健康科学特講、発達心理学特論、サイエンスコミュニケーション学、健康情報計測学、健康情報処理学、ストレス評価学、健康支援演習、ストレスマネジメント演習、メンタルヘルス学特講、心身健康科学研究Ⅰ・Ⅱ、心身健康科学特殊講義、心身健康科学特殊演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、心身健康科学特別研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)。

その他、教育活動として、次の通り担っている。委員会活動（倫理審査委員会、危機管理・衛生委員会、IR 室、ICT・DX 推進 AI・DS 展開 WG)、学科内担当（修士口頭試問準備・管理、入試)。

２．理念（教育に対する考え方）

本学は、Knowledge for well-being の創出を大きなテーマとして掲げている。そのなかで、所属する心身健康科学科では、『「こころ」「からだ」「環境・社会」の側面から、科学的な「人間の総合的理解」「心身の相関性の理解」を基盤に、心身ともに健康で豊かに暮らせる社会構築を支援できる人材の養成』（人間総合科学大学 HP）を教育の目的としている。学問としても総合領域として、様々な学問分野が複合的に関わりあう特徴がある。

心身健康科学科は通信制であり、年齢や社会経験など様々な背景と目的をもった学生が在籍している。多様な背景を持つ中で、働いている仕事への還元、専門的な知識をさらに深める、など、具体的な目標をもつ学生が多い。単なる知識の供給に留まらず、複合的な視点から人間の総合的理解に繋げていくことが教育の柱である。

これらの点において、私個人の教育理念として、自身の専門領域に限定することなく、関連領域を広く扱い、俯瞰的な視点での学びを大切にしている。私の専門は、人の心の働きである認知メカニズムを様々な角度から実験検証する比較認知科学であり、研究自体が心理学をベースとした複合領域である。そのため、行動学、社会学、生理学といった周辺分野を融合・活用した新しい視点での研究をおこなっており、枠組みに囚われない良さを肌で感じている。学生に対しても、興味を限定することなく、苦手なことにもまずは目を向けて、その対処を自分自身で考えていく力を養ってほしいと考えている。

３．方法（教育方法において大切にしていること）

教育方針として、学生の授業へのコミットメントおよび主体的な学びに繋がる授業を意識している。

私の所属は通信制だが、科目担当として通学制の授業も担当している。授業形態や学生の背景に限定されることなく、その時々のニーズに応じた教育プログラムを作る創造力を生かしたいと考える。例えば、有職者の学生であれば、すでに様々な経験を有している。それらの経験を科学的側面から捉え直し、大学で新たに学ぶ知識との融合を図るサポートをすることで、より深い学習に繋げていく。一方で受動的な学生には、突然主体性を求めても混乱を招くため、授業での気づきを毎回言語化するリアクションペーパー等を求めることで常に考える機会を与え、ステップを踏んで PBL に繋がる構成を心掛けている。講義型授業であっても、一方通行の座学とならないよう授業内でのグループワークや発言の機会を設けるようにしており、アクティブラーニング型の構成を多く用いる。

また COVID-19 による非常事態宣言下の教育のように、どのような制限のある状態でもいかに学生の明確な学習目標を持たせ、実践で役立つ思考力や考察力を強化する多様な体験機会を設けていくことが必要だと考えている。特に“思考”の根本である認知メカニズムや、Knowledge for well-being の創出に欠かせない健康や食に関する自らの研究知見を活かし、専門教育についても取り組み、基礎から応用までの連続性のある教育を心掛けている。

４．成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

授業では、授業内外における学生との対話を行い、内容修正に反映させている。加えて対面型授業では、毎回提出のリアクションペーパーを参考にし、次回授業において前回の補足説明の追加や、授業の進度や内容を調整している。授業中にフォローできない内容に関しては、必要に応じて追加資料の提示を行うなど、柔軟な対応を心掛けている。学期末には、授業評価アンケートの内容を元に次学期の授業構成の見直しを行っている。これらはシラバスに変更事項を記載することで、学生にもアップデートの共有を行っている。

５．目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

短期的目標として、毎期の授業における学生の学修の様子や授業評価アンケートを参考にし、毎期ごとに授業内容や授業の進め方のアップデートを行う。中期目標として、IR 室等の大学全体の学務を通して、授業アンケートの分析結果から、学科教員と連携し、学科や専攻としての授業やカリキュラム構成について検討を行い、新しい研究の知見等を新たに組み込むなど、総合的な指導に関するアップデートを行う。

＊ 表紙を含め、全体として、3 ～10 ページ程度とします。

【添付資料】

＊ TP の記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。
（シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、
すぐに確認できるようにしておきます。）